

第1学年 図画工作科学習指導案

い組 男子17名 女子17名 計34名
指導者 濱崎 昇平

1 題材 おって たてたら

2 題材について

(1) 題材の位置とねらい

本題材は、紙を折って立てた形から楽しい様子を想像し、立て方や切り方を工夫しながら表したいものをつくる工作の題材である。

この期の子どもたちは、思いのままに材料に働きかけ、自分が思いついた表し方を試しにやってみるなどして、自分なりに工夫しながら活動を楽しむ様子が見られる。また、活動をしながら表現のイメージや、自分が想像したものをつくりだしたいという思いをもつ。

そこで、本題材では、立てた形や切った形、イメージに合わせた色といった造形的な視点で、自分や友達の表現を比較したり、自分のイメージと関係付けたりしながら表したいものをつくる活動を通して、楽しく想像したものの表現する意欲を高め、立てた形や切った形、イメージに合わせた色といった視点を基に工夫するよさを理解し、表したいものを楽しく想像したり、友達の表現の楽しさを味わったりする力を伸ばし、イメージに合わせて紙を折ったり、はさみで切ったりする技能を高めることをねらいとしている。

このように、見立てた形から楽しく想像し、立て方や切り方を工夫して表したいものをつくる活動は、第1学年の題材「おはなしぱっくん」で、空き箱に切り込みを入れ、それを口に見立てて、楽しい生きものをつくる工作の題材へと発展していく。

(2) 指導の基本的な立場

本題材で扱う紙は、容易に折ったり切ったりすることができる。また、多様な色があるので、自分のイメージに合わせて表現しやすい特徴がある。そのため、子どもたちは試しに折ったり切ったりしたものから新しいものを想像し、つくり、つくりかえながら楽しく表現に意欲的に取り組むことができる考える。

そこで、本題材の展開にあたっては、**子どもの表現への思いや表現上の課題を具現化する題材のめあてや活動のめあてを工夫する**。また、自分や友達がつくったものを鑑賞し、楽しくできたところを振り返りながら、**造形的な視点を見いだしさせたり、自分の思いやイメージと造形的な視点に関係付けたりして、表現の工夫を考えさせる**。

具体的にはまず、折った形から想像し、表したいものをつくることに興味をもたせるために、**教師が実際に折って切った形を見せ、子どもが想像したことを楽しく交流し、題材のめあてを設定する**。次に、折って切った形がつながる仕組みを理解させるために、**試し用の紙を多く準備したり参考作品を基に、仕組みについて気付いたことを交流する場を設定したりする**。そして、自分の思いやイメージと立てた形や切った形、イメージに合わせた色といった造形的な視点に関係付けながら、よりよい表現にしていくために、**表現の途中で自分や友達の作品を鑑賞し合い感じたことを交流し合う場の設定を工夫する**。さらに、終末の鑑賞において、これまで子どもたちが気付いてきた造形的な視点や、自分や友達の思いやイメージを基に鑑賞し合い、互いの工夫を認め合う場を設定する。

これらの学習を通して、造形的な創造活動に主体的に取り組む態度を培い、自分が表したいイメージを創造的に発想や構想をしたり、表現のよさや美しさを感じ取ったりする能力を高めることができる。また、様々な材料の形や色から楽しく想像を膨らませ、活動しながら造形的な視点を見いだし、自分の思いやイメージに合わせて表現方法を工夫することができるようになる。このような学習を積み重ねることで、創造的にものごとを考えて表現したり、自分や周りのものごとの価値を感じたりしながら、形や色などを通して社会や生活に主体的にかかわれるようになっていく。

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちは、32名の子どもたちが、紙を折ったり切ったりしながらイメージしたものを表す活動に興味をもっている。(※1)しかし、2名の子どもが「はさみでうまく折ったり切ったりすることができない。」という理由で好きではないと答えている。そこで、紙の折り方や切り

実態調査 1年い組 34名 (4月中下旬実施)	
1	紙を折ったり切ったりする工作への興味関心について 好き(32名) 好きではない(2名) ※1
2	折って立てた形から想像することについて 想像できた(31名) 想像できなかった(3名) ※2 例 トンネル, ヨット, すべり台, ビル など
3	造形的な視点を生かして表現することについて 生かしている(20名) 生かしていない(14名) ※3 【生かしていない理由】 ・形や色をこだわるよさを実感していないから ・終始イメージがなく, なんとなくつくっているから ・折って立てるだけで満足しているから
4	鑑賞活動について 【友達の作品を見ること】 好き(30名) 好きではない(4名) ※4 (好きではない理由) ・見るより作った方が楽しいから ・見ても面白くないから 【自分の作品を見せること】 好き(29名) 好きではない(5名) ※4 (好きではない理由) ・恥ずかしいから ・見せたときに笑われたことがあるから
5	折って切ったときに紙がつながるように線の書き方や切り方を工夫することについて(実技) 工夫してできた(24名) できなかった(10名) ※5
6	はさみの使い方について(実技) 適切に使える(18名) 適切に使えない(16名) ※6 【適切ではない点】 ・はさみの奥で切ること ・紙を回して切ること

り方が視覚的に理解できる掲示資料を基に確認する場を設定するとともに、教師が個別に見届けや価値付けを行う。

折って立てた形から想像することについて、3名の子どもが具体的にイメージすることができなかった。(※2)理由として、見立てて楽しむ経験や発想するよさを味わう経験が少ないことが考えられる。そこで、教師と一緒に話をしたり、友達と見立てたことを交流する場を設定したりしながら発想を促す。

造形的な視点を生かして表現することについて、14名の子どもが生かすことができなかった。

(※3)理由として、形や色をこだわるよさを実感していなかったり、なんとなくつくっていたりするからだと考える。そこで、形や色を工夫して表現するよさを実感し、表現への思いを高められるような活動のめあてを設定したり、造形的な視点をみいださせ自分の思いやイメージにつなげられるような働きかけを工夫したりする。

鑑賞活動について、作品を見ることや見せることが好きではない子どもが数名いる。(※4)理由として、これまで鑑賞するよさを実感していないからではないかと考える。そこで、お互いの作品のよさを見付け、認め合う場を設定したり、教師が進んで価値付けを行ったりする。

紙がつながるように書き方や切り方を工夫することについて、10名の子どもができなかった。(※5)また、はさみを適切に使えない子どもが16名いた。(※6)線が折り目につながるようにすることやはさみの適切な使い方について確認をする場を設定する。

(4) 指導上の留意点

ア 「思いをもつ・見通す」段階では、折って立たせたものから想像し、表したいものを表現する意欲を高めるために、教師が実際にやって見せ、想像したことを交流する場を設定する。その際、折り方や立たせ方によって形が変わることや、見立てたものを基に切ったり色を付けたりすると楽しくなることを実感させ、子どもの表現への思いを高め「折り方や立て方をいろいろ試して楽しいものをつくろう」という題材のめあてを設定する。

イ 「思いを表現する」段階では、形や色を基に表現するよさを味わわせるために、自分や友達の作品を鑑賞しながら、よさやよくなった理由を交流する場を設定する。そして、形や色などの視点を工夫するポイントとしてまとめ、表現への思いやイメージを高められるような活動のめあてを設定する。また、造形的な視点とイメージを関係付けて表現することができるようにするために、造形的な視点を基に工夫している子どもを紹介し価値付ける。さらに、紙の折り方や切り方について全体で掲示資料を基に指導したり個別に指導を行ったりする。

ウ 「思いを味わう」段階では、形や色などの造形的な視点や表現のイメージを基に遊びながら鑑賞させ、それぞれの工夫を味わい、互いに認め合う場を設定する。さらに、これまでの表現の過程を振り返らせ、造形的な視点を基に試行錯誤してきた過程を教師が価値付ける。

3 目 標

- (1) 紙を折って立てたものから想像したり、イメージに合わせて切ったり色を付けたりする活動を楽しみ、自分が表したいもの進んでつくろうとすることができる。
- (2) 紙を立てた形や切った形、イメージに合わせた色といった視点を生かして表したいものをイメージしたり、自分や友達の表現のよさや面白さに気付いたりすることができる。
- (3) 紙を立てた形や切った形、イメージに合わせた色等の造形的な視点を理解できる。
 - ・ 自分の表したいイメージに合わせて紙を折ったりはさみを適切に使ったりすることができる。

4 指導計画 (全4時間)

過程	主 な 学 習 活 動	時間	教師の具体的な働きかけ	
思いをもつ・見通す	<p>1 教師が紙を折って立てたり切ったりする様子を見て、折って立ててつくる面白さを話し合う。</p> <p>紙を折って立てると、トンネルに見えてきた。色を塗ったり車を付け足したりしたいな。</p> 	↑	<p>○ 紙を折って立てて表現する面白さに気づくことができるようにするために、教師が実際に紙を折って立てる様子を見せ、立てた形からどのようなものを想像するかを交流させる。その際、多様な発想をしていることや色や切った形の工夫を思いついていることを価値付けたり、板書に示したりすることで、今後の表現への意欲や発想の手がかりにつなげる。</p>	
	<p>2 題材のめあて話し合う。</p> <p>かみをおったりたてたりして、たのしいものをつくろう</p>		1	<p>○ 活動の内容を焦点化するために、自分がつくってみたいものを交流させ、表現への思いを基に題材のめあてを設定する。</p>
	<p>3 自分がイメージしたものをつくる。</p> <p>(1) つくり方を話し合い、折り方や切り方を知る。</p> <p>折り目に線をつなげないと、紙が切れてしまうんだな。ぼくも試してみよう。</p> 		↓	<p>○ 思いやイメージに合わせて表現することができるようにするために、線を折り目につなげてかくことや、はさみを適切に扱うことを実際に教師が失敗して見せたり、掲示資料を見せたりしながら、どのようにすればよいかを考え実際に試す活動を設定する。繰り返し試せるように紙を多く準備しておく。</p>
思いを表現する	<p>(2) 折り方や立て方を工夫してつくる。</p> <p>縦向きにして折ったら高くなったぞ。ペンギンみたいに見えたから、つくってみよう。</p> 	↓	<p>○ 形や色などの造形的な視点を生かして表現することのよさを実感させるために、工夫している子どもの作品と工夫されていない教師の作品を比較させ、楽しく感じる理由を話し合わせ、紙を立てた形や切った形、イメージに合わせた色を工夫するポイントとしてまとめる。</p>	
	<p>(3) 友達のよさに気づき、自分の表現に生かす。</p> <p>つくったものをならべてまちをつくり、みつけたともだちのいいところをじぶんにいかそう。</p> <p>友だちがつくった建物や動物の形や色が面白いな。ぼくも面白い形や色をしたビルをつくってみよう。</p> 	2 (本時 3/4)	<p>○ 鑑賞への意欲をもたせ、感じた友達のよさを自分の表現に生かすことができるようにするために、教室の中央に長机を数台置き、その上に自分がつくったものを並べ、いつでも自分や友達の作品が見ることができる環境づくりを行う。そして、気付いた友達のよさを自分の表現に生かしている子どもを紹介し価値付ける。</p>	
思いを味わう	<p>4 できあがった作品を鑑賞し合い、よさや面白さを伝え合う。</p> <p>折り方や切り方を工夫すると楽しいものがつくれたよ。今度は、おうちでも形や色を工夫して楽しいものをつくってみたいな。</p> 	↓	<p>○ 活動を振り返り、今後の表現や鑑賞活動への意欲をもたせるために、画用紙でつくった小さい自分を使って町探検に出かけ、楽しいことや友達の工夫を、工夫するポイントを基にまとめ全体で共有する。そしてそれぞれの工夫を認め合う場を設定する。</p>	

5 本時(3/4)

(1) 目標

思いやイメージに合わせて紙を加工したり友達の表現の工夫を見付けたりしながら、友達と楽しく町づくりをする活動に進んで取り組むことを通して、立てた形や切った形、イメージに合わせた色といった工夫するポイントを基に友達のよさを見付け、切り方や折り方を適切に行いながら、自分の表現に生かそうとすることができる。

(2) 本時の指導に当たって

本時では、形や色などの造形的な視点を基に活動をしながら、さらに表現への思いやイメージを豊かにするために、自分と友達の作品を並べ比較させ「友達と一緒に作ってみたい。」という思いを引き出し、「つくったものをならべてまちをつくり、みつけたともだちのいいところをじぶんにいかそう。」という活動のめあてを設定し、表現と鑑賞が一体的に行えるようにする。

(3) 実際

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
思いをもつ・見通す	1 自分と友達の作品を並べて気付いたことを話し合う。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 友達の車の色が楽しくていいな。みんなですべて大きな町をつくりたい。 </div>	5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 活動を行う際に形や色などの造形的な視点を生かすことを意識させるために、隣同士で作品を並べ感想を交流させ、気付いた友達のよさを工夫するポイントとしてまとめる。その際、工夫するポイントを生かしている子どもを紹介する。 ○ 本時の活動を焦点化するために、鑑賞するよさを交流させ、教室の中央に置いてある長机にみんながつくったものを並べて町をつくり、作品を見たことを表現に生かしたいという思いを引き出させ、本時の活動のめあてを設定する。
	2 活動のめあてについて話し合う。 つくったものをならべてまちをつくり、みつけたともだちのいいところをじぶんにいかそう。		
思いを表現する	3 見付けたよさを生かしながらつくる。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 形を工夫 イメージ すべり台を楽しくつくれたよ。 </div> </div> <div style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 色を工夫 イメージ 車をカラフルにすることができたよ。 </div>  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> 自分の作品 カラフルな車は楽しい感じがするな。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> 友達の作品 すべり台の形が面白いな。 </div> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> 【工夫するポイント】 立てた形、切った形 イメージに合った色 </div>	35	<ul style="list-style-type: none"> ○ 工夫するポイントを基に表現や鑑賞を行わせるために、鑑賞したことを振り返らせ板書に示したポイントを基に「自分の作品にどのように生かせそうかな。」と問い、工夫するポイントを通して考えたことと、これまでのイメージを関係付けさせる。 ○ つくりたいものが思いつかず活動が停滞している子どもが意欲的に活動に取り組めるように「紙を立てたこの形はよく見てみると何に見えるかな。」と見立てさせ、表したいものをイメージできるようにする。 ○ 進んで鑑賞を行い、自分の表現に生かすよさを実感させるために、自分のつくる場所と町を歩き来している子どもを紹介し、行き来しながら考えることでイメージが豊かになったことを価値付ける。 ○ 適切にはさみを使うことができるように、はさみの適切な使い方の掲示資料を活用する。
	5 本時の学習を振り返る。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 友達の形や色の工夫を生かしてつくと楽しい様子を表すことができた。次の時間も折ったり立てたりして楽しい町をつくりたいな。 </div>		
思いを味わう			